いまかね教育かわら版
こんにちは教育委員会です ふたたび

No.２３４
令和８（２０２６）年６月１８日発行
今金町教育委員会の会
文責：教育長　中山秀悦

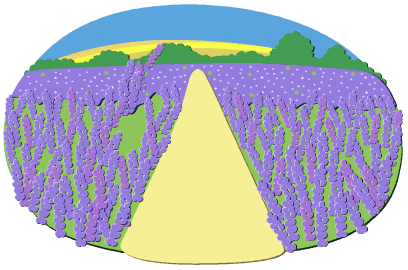
６月、運動会シーズンです。“分かるよなあ”　実感です。行事実施の天候判断･･･。
これは学校長の醍醐味でもあり、孤独感を感じる場面でもあります。
自分も何度か経験する度に、「学校って年に何回かの実施判断だけど、農業関係の方、建設関係の方は常に大決断をしているんだよな」と思ってきたところですが。校長先生、本当にご苦労様です。
部活動でも少年団活動でも、監督としてのメンバー選出。これもまた醍醐味でもあり、孤独感を感じる場でもあります。人事然り･･･。そんな時こう思ってきました。世の中には自分なんかよりもっともっと重たい判断をしてきている人がいる、と。
ただそれ故に、昨今の SNS での無記名の批判や一方的な意見の標榜にため息が出るのです。うちの町では、自分の周りでは、それだけは絶対に許さないぞ、と。



教育委員リレーエッセイ
『　初夏の風とともに　』

今金町教育委員　　水戸部　明子

６月を迎え、爽やかな風が心地よい季節となりました。木々の緑もいっそう鮮やかになり、子どもたちの元気な声が学校や地域に活気をもたらしています。
新学期が始まってから２ヶ月余りが過ぎ、子どもたちも新しい環境に少しずつ慣れ、それぞれの生活リズムをつくり始めています。学習はもちろん、友達との関わりや日々の活動を通して、多くのことを学び、成長している姿が感じられます。
子どもたちの成長は、いつも順調とは限りません。時には悩み、失敗し、立ち止まることもあります。しかし、その経験の一つひとつが、考える力や乗り越える力、そして相手を思いやる心を育てていくのだと思います。
これからの時代を生きる子どもたちには、知識だけではなく、自ら考え、判断し、行動する力が求められます。そして、そのカは学校だけで育まれるものではなく、家庭や地域とのつながりの中でも大きく育っていきます。
子どもたち一人ひとりが安心して学び、自分らしく成長できるよう、学校・家庭・地域が力を合わせて支えていくことの大切さを改めて感じています。初夏の青空のように、子どもたちの未来が明るく大きく広がっていくことを願っています。



サッカーワールドカップが始まり、感動に心揺さぶられる日々です。選手たちのプレーはもとより、試合終了後の日本人サポーターのごみ拾いの姿、退出後の日本チームの片付けられたロッカーの様子の話題。それは日本人の良さであり、そして長く続いてきた日本の教育の姿そのものなのだと思いたい。良いものは良い。そう信じています。